

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670600172
法人名	有限会社 ふれあい
事業所名	グループホーム ポンタ
訪問調査日	平成19年7月27日
評価確定日	平成19年8月29日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 6 7 0 6 0 0 1 7 2
法人名	有限会社 ふれあい
事業所名	グループホーム ポンタ
所在地	阿久根市赤瀬川4295 (電 話) 0996-73-4348
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 19年 7月 27日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 16年 5月 25日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 6人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
------	---------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.1 歳	最低 66 歳	最高 100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	林胃腸科・外科 ひかり歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から近い閑静な住宅街にホームは建てられている。近くに海があり入居者は日々の散歩を楽しみ、木をふんだんに使ったホームは開口部を多くとり、日当たりや風通しがよく入居者が快適に過ごすことができる。計画作成担当者をはじめ看護師資格者が多く在籍しているため、協力医療機関との緊密な連携のもと、入居者は必要な医療支援を受けながらホームでの生活を継続することが可能となっている。地域の人々との交流も盛んに行われ、防災面での協力関係も築かれるなど地域に根ざしたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 個別の栄養摂取状況の把握については、管理栄養士に毎月献立の内容をチェックした上でアドバイスをもらい、その内容を新設された食事委員会で検討するよう改善されている。また、水分摂取量についても毎日チェックされている。市町村との関わりについては、運営推進会議での交流の他、地域との交流会やホームの行事等に招待するなど改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義をグループホームのあるべき姿の再確認としてとらえ、質の向上に向けて、運営者及び管理者を中心に職員全員で評価に取り組んでいる。また、発見された問題点も全員で話し合い、改善に向けた取り組みが行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に運営推進会議を開催し、入居者の状況、地域との関わり、評価への取り組みなどについて報告が行われるとともに、参加者からも活発な意見が出され、サービスの向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族等が意見、不満、苦情等を表せる機会として、重要事項説明書にホームの苦情相談窓口とともに行政その他外部の受付窓口を明示している。また、ご家族とのコミュニケーションを大事にし、普段から何でも話せる関係を築き、家族会を含め意見を聞くようにしている。出された意見はミーティングにおいて職員全員で共有し、改善に向け取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員としてなかよし会、婦人会、お祭りなど各種行事、活動に参加している。また、地域との交流会を定期的に開催したり、学校の職場体験学習の受入れ等、交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングにおいて、日常のケアと関連付けて話すことで理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としてなかよし会、婦人会、お祭りなど各種行事、活動に参加している。また、地域との交流会を定期的に開催したり、学校の職場体験学習の受入れ等、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をグループホームのあるべき姿の再確認としてとらえ、質の向上に向けて、運営者及び管理者を中心に職員全員で評価に取り組んでいる。また、発見された問題点も全員で話し合い、改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、入居者の状況、地域との関わり、評価への取り組みなどについて報告が行われるとともに、参加者からも活発な意見が出され、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に行き来する機会は少ない。	○	包括支援センターを含め普段から市の担当者と行き来する機会をつくり、連携しながらホームの質の向上に取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の訪問時や定例的な家族会において、入居者の普段の様子や健康状態など報告している。また、遠方のご家族に対しても、請求書とともに入居者の写真を添えた手紙を送ることで毎月報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等が意見、不満、苦情等を表せる機会として重要事項説明書にホームの苦情相談窓口とともに、行政その他外部の受付窓口を明示している。また、ご家族とのコミュニケーションを大事にし、普段から何でも話せる関係を築き、家族会を含め意見を聞くようにしている。出された意見はミーティングにおいて職員全員で共有し、改善に向け取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響の大きさを配慮し、離職を最小限に抑えるよう努力しており、職員の異動は必要最小限に抑えられている。やむをえず離職等が発生した場合は、非常勤職員の勤務を増やすなど入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での勉強会が定期的に行われており、外部への研修にも積極的に参加している。しかし、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画はたてられていない。	○	職員の個々のレベルに対応した育成計画や、年間研修計画の作成を検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に参加し、事例検討や意見交換を行うなど、同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人やご家族にホームを訪ねてもらい、職員や他の入居者と直にふれあっていただき、安心、納得した上で入居にいたるよう家族と相談しながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であると職員全員が認識し、介護される一方の立場におかず、それぞれの得意な分野で力を発揮していただき、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けをし、コミュニケーションを図ることで、それぞれの暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、入居者のご家族からも意見を聞き、本人本位に検討している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成には、入居者本人の希望は勿論のこと、ご家族の意見や全職員の意見が反映され作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の期間(6ヶ月)終了前に見直しを行っている。また、状態の変化が生じた場合には入居者本人、ご家族、職員と話し合いながら必要に応じて計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師資格者が多く在籍しており、協力医療機関との緊密な連携のもと、必要な医療を受けながら可能な限りホームでの生活が継続できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人やご家族の希望するかかりつけ医を、継続して受診できるよう支援している。また、普段からかかりつけ医と連絡を取り合い、適切な医療が受けられるよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より重度化した場合や終末期のあり方について、本人やご家族の思いを確認している。また、入居後も状態の変化に合わせてかかりつけ医を含めて話し合い、その都度意向を確認し、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心や尊厳、個人情報の取り扱いに配慮しながら日々の支援を行っている。ミーティングや勉強会でも日々の関わり方を検討し、職員の意識向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、一日の過ごし方、過ごす場所など本人の希望にそって見守りを中心に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食のメニューは、入居者に声を掛け可能な限り決めていただいている。また、下ごしらえや調理、配膳、後片付け、食器洗いなど出来ることは一緒にいき、職員とともに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、入居者の希望に応じてその都度柔軟に対応している。入浴を拒否される入居者もいらっしゃるが、強制せず、声を掛ける職員を代えたり時間帯をずらすなどの配慮をして入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の過去の暮らしぶり、好きなこと、今出来ることに配慮しながら、食事の下ごしらえ(竹の子やつわの皮むき)畑の作物の収穫などの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調を配慮しながら、希望に応じて散歩や買い物など日常的な外出支援が行われている。また、入居者の提案により喫茶店に行ったり、ご家族とともにお弁当持参で公園や海に出掛けたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、テラス等は鍵をかけずに開放している。職員は見守りに徹し、出かけようとされる入居者がある場合は職員が同行し、一緒に散歩するなど支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の協力を得て消火・避難訓練を実施している。この訓練に近隣の住民も参加するなど、地域の人々との協力体制がつけられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活チェック表により、食事や水分の摂取量が把握されている。栄養バランスについても、外部の管理栄養士に毎月献立をチェックしてもらいながら、適切な栄養が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い開口部や天井の明り取りのため、共用空間は外の光が降りそそぎ明るいスペースとなっている。また、十分なスペースがあるため、入居者はテーブルやソファ、畳スペースなど思い思いの場所で居心地よく過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や使い慣れた品物が持込まれている他、手作りのカレンダーやご家族の写真が飾られるなど、入居者が居心地よく安心して過ごせるよう工夫されている。		